

遠門
661
卷



第一

目錄

愛情お団舞妓

みく巻

好文堂

明治三六年
九月十一日
購求



右后の志ハトハ云ハルニ階乃歌

若と今いれらとを女が去まの乃中

一達いふ女を真の口ハ云ハル

名子の持わらそ面敷ハ一念の御歌

才二

射はし勝事いふに振つて流流のり

歌の御え一指の御扇を骨と打妻

うまれあふに氣い紙懐ふ恥とらうと一又強

笑もこのをいさの役小吉御下り今働と

才三

武運と開く御扇を流る家乃後と

中ね非の音と今に高う服と足や打を

悪人を切の老被打納つては家おる昌

たは金の更運兵のか指万石御茶

一 右左のをどりいふにをれぬ二階の歌

燈暗しとい教の喜民が涙の面も。うふ別れと袖をれて。おれと

一おれと心結の。おれと心結の。おれと心結の。おれと心結の。おれと心結の。

えは。おれと心結の。おれと心結の。おれと心結の。おれと心結の。おれと心結の。

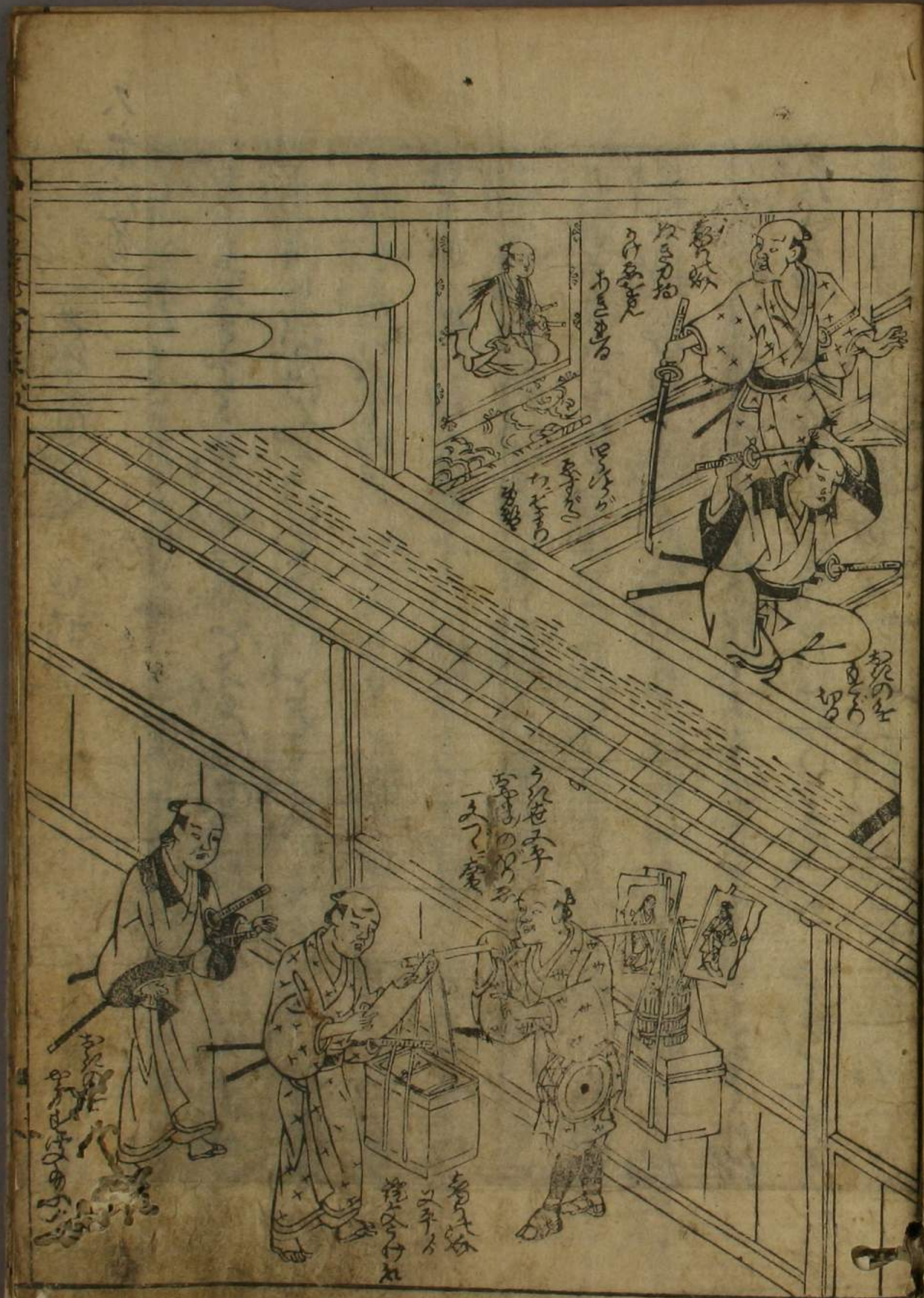
おれと心結の。おれと心結の。おれと心結の。おれと心結の。おれと心結の。

して涙の祥をわたり。こころをいさのまを。射ののりといひ。おれも

昔と。おれと心結の。おれと心結の。おれと心結の。おれと心結の。おれと心結の。

まの風信が。おれと心結の。おれと心結の。おれと心結の。おれと心結の。おれと心結の。

おれと心結の。おれと心結の。おれと心結の。おれと心結の。おれと心結の。おれと心結の。



中何れをとり申さる。今も新妻の老はも人として足すをたす。
 いては。林にてこころをくは。足すとして。一に。て。る。
 世をさる。ま。ま。仲。を。ま。後。も。由。目。を。う。り。て。
 果。は。い。い。け。ん。を。い。て。由。敷。と。ま。さ。れ。ま。る。に。こ。こ。ろ。
 ら。が。あ。ん。た。い。な。娘。君。に。申。上。し。ぬ。る。也。を。い。て。も。ま。ま。
 り。め。と。さ。ひ。切。る。眼。中。に。涙。と。ま。あ。け。き。い。と。あ。ら。い。
 昔。口。は。も。お。難。れ。申。さ。る。と。歌。と。ま。ま。新。し。く。ま。
 長。若。申。さ。る。を。切。て。申。さ。つ。て。い。い。あ。げ。の。ま。ま。
 足。と。換。じ。つ。あ。ま。進。り。に。進。つ。れ。あ。い。が。な。く。切。換。つ。て。
 り。い。今。も。あ。ま。と。付。ん。と。移。り。ま。の。天。下。に。ま。ま。
 死。る。時。に。ま。ま。と。い。ひ。あ。り。れ。ま。り。と。ま。ま。一。世。と。ま。
 の。あ。れ。は。お。お。の。契。約。の。一。世。と。ま。ま。海。は。世。の。情。に。あ。り。
 安。く。新。し。く。今。も。あ。ま。百。年。あ。ま。あ。ま。ま。ま。ま。
 る。と。あ。ま。も。仲。と。ま。ま。と。い。い。あ。ま。が。あ。ま。も。死。る。と。
 一。世。と。ま。ま。と。い。い。あ。ま。と。あ。ま。と。い。い。あ。ま。と。
 り。い。ま。あ。ま。新。し。く。あ。ま。と。い。い。あ。ま。と。い。い。あ。ま。
 じ。い。と。ま。ま。と。い。い。あ。ま。と。い。い。あ。ま。と。い。い。あ。ま。
 身。の。あ。ま。と。い。い。あ。ま。と。い。い。あ。ま。と。い。い。あ。ま。
 いる。一。あ。ま。と。い。い。あ。ま。と。い。い。あ。ま。と。い。い。あ。ま。
 した。あ。ま。と。い。い。あ。ま。と。い。い。あ。ま。と。い。い。あ。ま。
 味。と。い。い。あ。ま。と。い。い。あ。ま。と。い。い。あ。ま。と。い。い。あ。ま。
 と。付。つ。る。あ。ま。と。い。い。あ。ま。と。い。い。あ。ま。と。い。い。あ。ま。
 那。の。あ。ま。と。い。い。あ。ま。と。い。い。あ。ま。と。い。い。あ。ま。
 て。新。し。く。向。て。ら。れ。我。れ。を。あ。ま。と。い。い。あ。ま。と。い。い。あ。ま。

又巻之五

